

へ返シ入給ヘト、各伏拜給ヘドモ、神慮誠ニシリ難シ、

〔吾妻鏡二十五〕承久三年六月七日庚申、相州泰時○北條武州弟時房以下東士、東海道軍士、陣于野上垂井兩宿有合戰僉議、義村計申云、北陸道大將軍上洛以前可遣軍兵於東路歟、然者勢多、相州手上城介入道、武田五郎等、宇治、武州、芋洗、毛利入道、淀渡、結城左衛門尉、并義村可向之由云云、武州承諾、各不及異議、駿河次郎泰村從父義村雖可向淀手爲相具、武州加彼陣云云、

〔立川寺年代記稱光〕應永廿七年庚子、天下大旱、麁略○中近江湖水三町乾枯、淀河無船渡、

〔源順集〕五月あめふる日、東宮にさぶらひて、雨の心の歌を奉るとして、もじひとつをさぐりて、あもじを給はれり、

雨ふれば草葉の露もまさりけりよどのわたりを思ひ社やれ

〔雲葉和歌集十羈旅〕別のこころを

朝霧に淀のわたりを行舟の志らぬ別も袖ぬらしけり

〔夫木和歌抄二十六〕よどの渡

あやめ草たづねてぞ引まこもかるよどのわたりのふるきぬままで

土御門院御製

祭主輔親卿

和泉式部

よどわたりあめにはいとまこもぐさまことにそれをねになかれにし

俊頼

〔永久四年百首春〕石清水臨時祭

たつほどのかさねかはらけなかりせばおぼえて淀の渡せましや

〔松葉名所和歌集四〕桂渡 山城

〔京羽二重四〕渡

桂ノ渡 同郡野葛下桂村ノ東ニ有

桂渡